

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名

山 梨 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	須玉町立須玉中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	64	54	60	2	180	

研究の概要

1. 研究主題

[生きる力]を支える「確かな学力」の向上を目指した学習活動の展開  
 —— 生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を通して ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科

本校では,[生きる力]を全人的な力とし,その中の知の側面を「確かな学力」と捉えている。総合的な学習の時間,選択教科等を含めた全教科でその基礎・基本を押さえ,さらに教科の特性に応じ,自ら学び,考え,主体的に行動する力を育てていくために教育活動全体で実施していく。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>1 研究主題              [生きる力]を支える「確かな学力」の向上を目指した学習活動の展開              —— 生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を通して ——</p> <p>2 研究のねらい              地域の特性を生かし,豊かな人間性を培いながら,基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付け,自ら学び,考え,主体的に行動し,よりよく問題を解決する資質や能力を伸ばす学習活動を展開していくことにより,「生きる力」をはぐくんでいく。</p> <p>3 研究仮説              生徒の実態及び地域の特性に応じた適切な教育課程を編成し,個に応じた学習体制・学習方法の工夫改善,主体的に学ぶ学習指導・支援の工夫改善などきめ細かな教育活動を展開していくことにより,「確かな学力」を向上させていくことができるであろう。</p> <p>4 研究内容・方法              [1] 「確かな学力」向上のための実践研究              (1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫と改善              生徒の実態に応じた学習体制の確立              TT指導 少人数指導 習熟度別・コース別学習              生徒の実態に応じた指導方法の工夫              指導方法の工夫 教材の開発              学力の評価を生かした指導方法の改善              評価規準・基準の作成 評価方法の工夫              (2) 主体的に学ぶ学習指導・支援の工夫と改善              体験的・問題解決的な学習指導の工夫              総合的な学習の時間の実践              各教科等における体験的・問題解決的な学習への取り組み              学ぶ意欲を高める工夫              地域の人材等の活用(教科・選択・総合・道徳)              具体的な目標を持たせての学習(読書,英検,数検,漢検など)              学ぶ習慣を身に付ける工夫              放課後の活用(補充的な学習,主体的な学習)</p>
--------	--

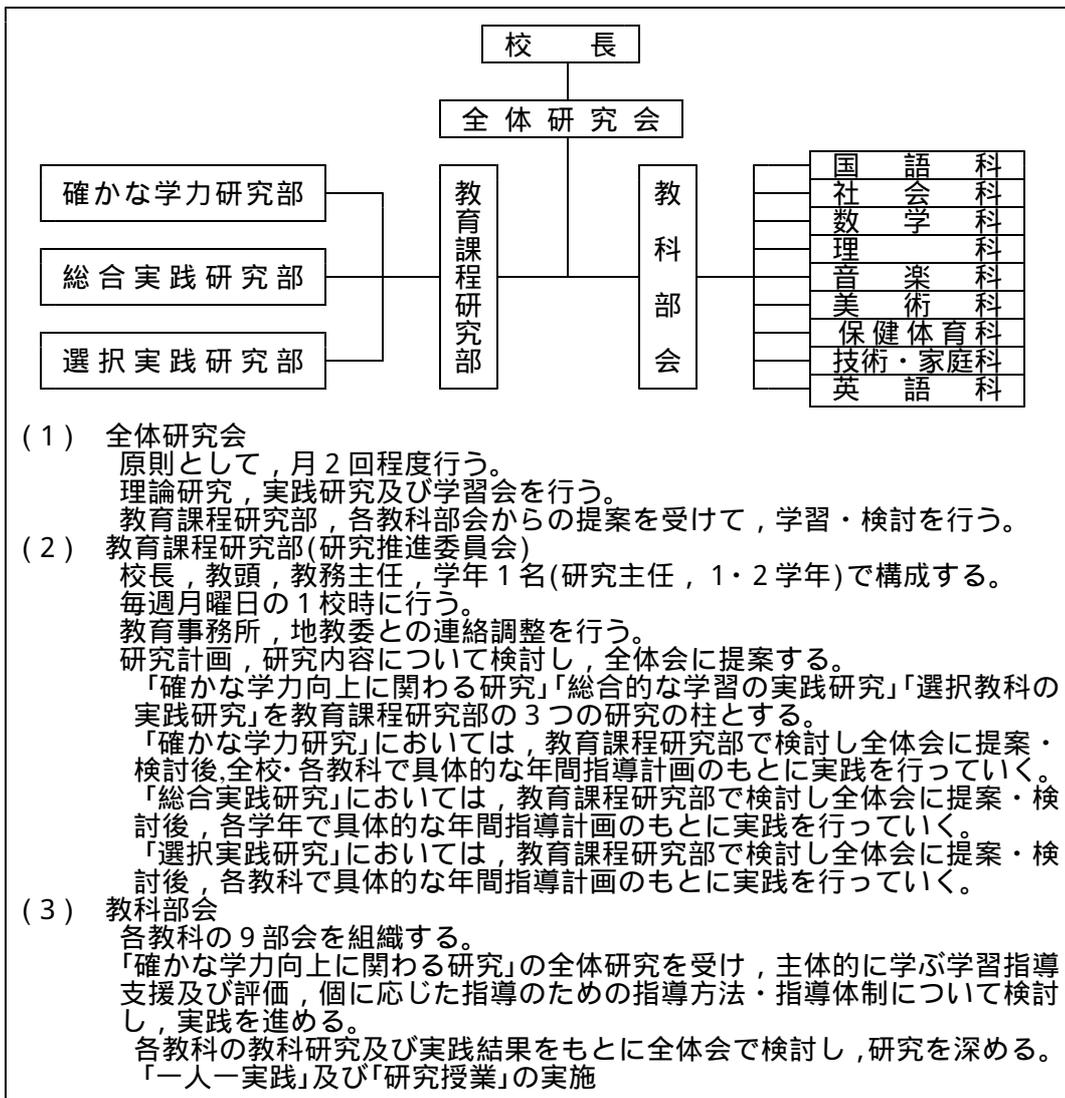
	<p>宿題や課題による家庭学習の習慣化</p> <p>[ 2 ] 「地域ふれあい道徳推進事業」の実践研究 道徳教育に関わる指導計画のもと授業を地域の人々や保護者・祖父母等に広く公開する。 「心の教育懇談会」等の実施</p>
--	---

平成15年度	<p>1 研究主題 [ 生きる力 ] を支える「確かな学力」の向上を目指した学習活動の展開 —— 生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を通して ——</p> <p>2 研究のねらい 地域の特性を生かし、豊かな人間性を培いながら、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付け、自ら学び、考え、主体的に行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を伸ばす学習活動を展開していくことにより、「生きる力」をはぐくんでいく。</p> <p>3 研究仮説 生徒の実態及び地域の特性に応じた適切な教育課程を編成し、個に応じた学習体制・学習方法の工夫改善、主体的に学ぶ学習指導・支援の工夫改善など、きめ細かな教育活動を展開していくことにより、「確かな学力」を向上させていくことができるであろう。</p> <p>4 研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫と改善 生徒の実態に応じた学習体制の確立 TT指導 少人数指導 習熟度別・コース別学習 生徒の実態に応じた指導方法の工夫 指導方法の工夫 教材の開発 学力の評価を生かした指導方法の改善 評価規準・基準の作成 評価方法の工夫</p> <p>(2) 主体的に学ぶ学習指導・支援の工夫と改善 体験的・問題解決的な学習指導の工夫 総合的な学習の時間の実践 各教科等における体験的・問題解決的な学習への取り組み 学ぶ意欲を高める工夫 地域の人材等の活用(教科・選択・総合・道徳) 具体的な目標を持たせての学習(読書, 英検, 数検, 漢検, 理検) 学ぶ習慣を身に付ける工夫 放課後の活用(補充的な学習, 主体的な学習) 宿題や課題による家庭学習の習慣化</p>
--------	--

平成16年度	<p>1 研究主題 [ 生きる力 ] を支える「確かな学力」の向上を目指した学習活動の展開 —— 生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を通して ——</p> <p>2 研究のねらい 地域の特性を生かし、豊かな人間性を培いながら、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付け、自ら学び、考え、主体的に行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を伸ばす学習活動を展開していくことにより、「生きる力」をはぐくんでいく。</p> <p>3 研究仮説 生徒の実態及び地域の特性に応じた適切な教育課程を編成し、個に応じた学習体制・学習方法の工夫改善、主体的に学ぶ学習指導・支援の工夫改善などきめ細かな教育活動を展開していくことにより、「確かな学力」を向上させていくことができるであろう。</p> <p>4 研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫と改善 生徒の実態に応じた学習体制の確立 TT指導 少人数指導 習熟度別・コース別学習 生徒の実態に応じた指導方法の工夫 指導方法の工夫 教材の開発 学力の評価を生かした指導方法の改善 評価規準・基準の作成 評価方法の工夫</p> <p>(2) 主体的に学ぶ学習指導・支援の工夫と改善 体験的・問題解決的な学習指導の工夫 総合的な学習の時間の実践</p>
--------	--

各教科等における体験的・問題解決的な学習への取り組み  
 学ぶ意欲を高める工夫  
 地域の人材等の活用(教科・選択・総合・道徳)  
 具体的な目標を持たせての学習(読書, 英検, 数検, 漢検, 理検)  
 学ぶ習慣を身に付ける工夫  
 放課後の活用(補充的な学習, 主体的な学習)  
 宿題や課題による家庭学習の習慣化

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

教研式標準学力検査C R T (目標到達基準で到達度を絶対評価)の結果から  
 【全国と本校の得点率での比較】  
 2学年  
 全教科、観点別の得点率の平均を全国と比較すると  
 国語(-0.3) 社会(-1.1) 数学(+0.3) 理科(-4.4) 英語(+1.6)  
 3学年  
 全教科、観点別の得点率の平均を全国と比較すると全国を上回っている。  
 国語(+0.4) 社会(+6.2) 数学(+3.3) 理科(+6.1) 英語(+10.4)  
 観点別で「特に全国より優れている」のは、

社会(資料活用の技能・表現 + 6.2) 理科(観察・実験の技能・表現 + 10.6)  
英語 全観点 (関心・意欲・態度 + 8)(表現の能力 + 10.3)  
(理解の能力 + 10.9)(知識・理解 + 10)

教研式標準学力検査NRT(全国学力水準と比較した相対評価)の推移から

【1学年のときの結果との偏差値換算での比較】(英語は比較データなし)

2学年 国語(+ 1.1) 社会(+ 3.0) 数学(+ 0.4) 理科(- 3.6)

3学年 国語(- 0.4) 社会(+ 5.0) 数学(+ 0.8) 理科(- 0.2)

#### 1 全校の取り組み

・「朝の読書」「礎の時間」「琢磨の時間」の取り組みは、次第に定着してきており、生徒は熱心にまじめに取り組み、基礎学力の向上につながってきていると感じている。

#### 2 必修教科の実践

・フロンティア校として、学力向上のための課題を意識しながら授業実践を進めることができた。  
・多くの教科で自己評価を取り入れた実践を行い、生徒の学習の振り返りや意欲化につながってきている。  
・絶対評価のための多様な評価活動が工夫されてきている。

#### 3 選択教科の実践

・課題学習、補充学習を中心に行ってきたが、生徒はまじめな態度で自分の課題のもとに学習することができており選択教科の意義を感じる。また、少人数であることから、個に応じた指導が行いやすく、特に、補充的な学習を行う際にはとても効果がある。

#### 4 総合的な学習の実践

・「基礎学習」「全校共通テーマ学習」「学年テーマ学習」など計画的に進められてきた。  
・はっきりとした興味・関心をもっている生徒は、学習が深まるとともに多面的にものごとを見ることにもつながってきている。また、そうでない生徒もその生徒なりに調べ、まとめ、発表してきており、今までの教科学習では身に付けられなかった力がついてきている。忙しい学校生活の中で唯一精神的なゆとりを持って学習している場面であると感じている。

## 2. 今後の課題

#### 1 全校の取り組み

・「朝の読書」「礎の時間」については、すぐに効果が上がるものではないが、特に、「礎の時間」においてはもう少しゆとりが欲しい。また、評価「C」の生徒への手だてをどうしていくかが重要な課題である。さらに、今後、生徒の観察やアンケート等を行っていく中で、生徒の思いや感じていることを分析していくことが必要である。  
・全校の取り組みは、学習内容の理解や定着が不十分な点を補充したり、自分の課題に基づいて学習を進める機会を保障し、学力の向上につなげていこうとするものであるが、生徒の学ぼうとする主体性の向上が大きな課題である。この取り組みを通して、その学習内容を理解することはもとより、この活動が家庭学習や周りと学び合うことにつながり、学習の習慣化や学習に対する意欲の向上を図ることについては、これから実践を積み重ねながら研究を深めて行かなくてはならない。

#### 2 必修教科の実践

・TTが有効に活用できる場面の研究をしていかななくてはならない。  
・学習態度がまだまだ受身的であり、復習をしたり、質問を積極的にしたりして、学習内容をしっかり定着させようとする意識が弱く、今後工夫改善していかななくてはならない。  
・必修教科における指導法の工夫や改善については、今まで全ての教師が日々の活動の中で取り組んできている。また、先行事例も多くあり、その方向性も見えている部分もあるが、様々な教育活動が行われ、追われているような現状の中ではできないことがある。少しずつではあるが、できないことに取り組みながらそれを蓄積し、それを指導に生かし、実践を積み重ねて行かなくてはならない。

### 3 選択教科の実践

- ・一人ひとりに対応できる教材をさらに検討していきたい。
- ・生徒の希望や人数からも、開設コースをもう少し増やしていきたい。
- ・補充的な学習が含まれることにより選択教科の実際の内容は大きく変わってきたと感じている。学年が上がるにつれ、5教科の希望が増え、特に、3年生は生徒によって入試を強く意識した履修希望となる傾向がある。選択教科のねらいからこのことをどうとらえていけばよいのか。

### 4 総合的な学習の実践

- ・外部講師を招いて話を聞いたり、体験活動を通して技能を習得したりするなどの機会をもっと積極的に取り入れていきたい。
- ・課題を決定するにあたって、自分は何を学習していきたいのか十分に考えていない生徒がいる。学習を深めていくことや先を見通す力を生徒に付けさせていかなければならない。
- ・生活している地域から出発して学習を進めていくことはよいと思うが、反面、地域に限定されてしまっているという思いがある。

## 学力把握のための学校としての取組

### 定期的な学力調査の実施(年2回)

#### 教研式標準学力検査

1学期 前年度の学力の実態を全国学力水準と比較して相対的に学力を把握

3学期 その年度の指導成果を目標到達基準で到達度を絶対評価で確認

目的： 生徒の学力の実態を客観的に把握し、学習指導に生かす。  
学級、学年集団の学力の実態から、教育課程の編成や指導計画・方法の改善に役立てる。  
校内研究・実践の検証のための1つの素材とする。

#### 学習に関するアンケートの実施(1学期)

目的：学習に対する生徒の意識調査を通して、指導の改善に役立てる。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### 平成15年度

#### フロンティアスクール研究実践公開(中間発表会)

日時：平成15年11月19日(水) 場所：須玉中学校

内容：数学、理科、英語の授業公開と全校の取り組みの公開および研究会

対象：峡北地区学力向上推進協議会委員、峡北地区小中学校・高等学校

山梨県フロンティアスクール研究指定校

研究成果普及のためのHP作成および公開

### 平成16年度

#### フロンティアスクール研究実践公開

日時：平成16年10月(予定) 場所：須玉中学校

具体的内容等については未定

研究成果普及のためのHP作成および公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無